奨学金を利用・申請できなかった
経験に関するアンケート調査結果

404人の若者の声を集めました

10代をひとりにしない
認定NPO法人 D×P

調査概要の掲載

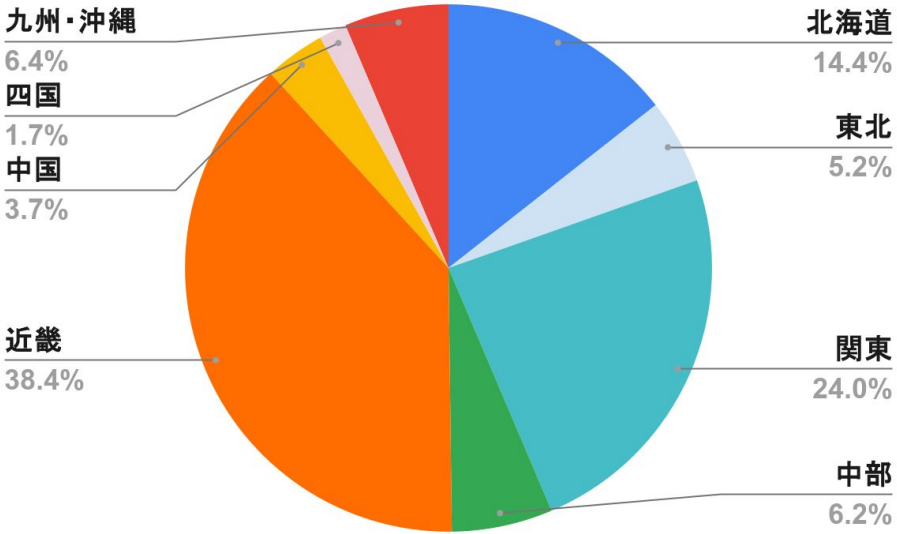
概要・目的	ユキサキチャットには、さまざまな理由からJASSOや民間の給付型・貸与型奨学金に申請できなかった、もしくは申請したが不採用になってしまい、生活困窮状態に陥った学生からの相談が一定数ある。制度の狭間にいる層の実態の可視化、現状把握によって、支援ニーズを調査することを目的とした。
調査対象	奨学金を利用・申請できなかった経験がある18～25歳に対し、SNS広告等や、学校関係者・家族・友人知人からの紹介等を活用し、アンケート回答を呼びかけ（アンケート協力謝礼として、希望者に食料支援セットを送付）
回答者数	18~25歳404人が回答(※411人から回答があったが、対象外7件を除外)
アンケート期間	2026年8月3日から2026年8月27日

※本調査において、小数点第二位以下は四捨五入しており、構成比を　　合計しても必ずしも 100とはなりません。

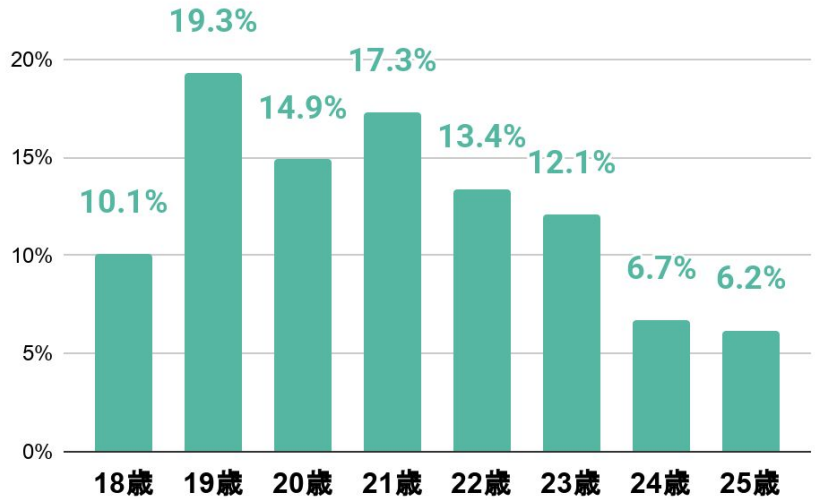
基本情報：回答者404人の属性

・都道府県に関する集計では、近畿圏の学生が最も多い割合を占めた。
・年齢は18-22歳で75.0%を占めており、大学進学前後～在学期の年齢が中心の回答者構成となる。

都道府県



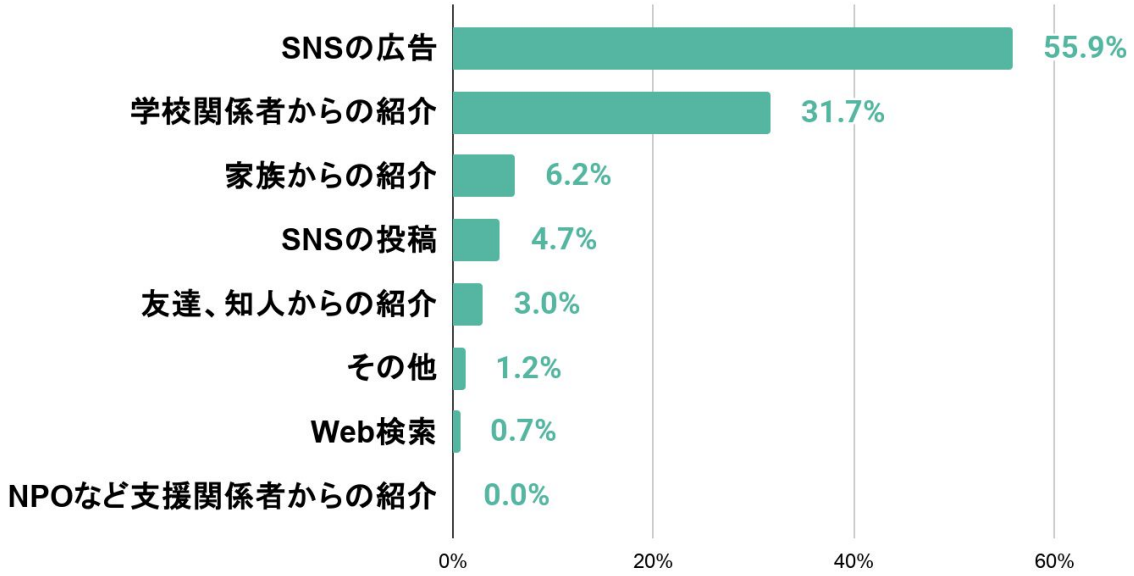
年齢



本アンケートの認知経路（n＝404人）

回答者の認知経路は「SNSの広告」が55.9%と最も多く、「学校関係者からの紹介」が31.7%と続いた。

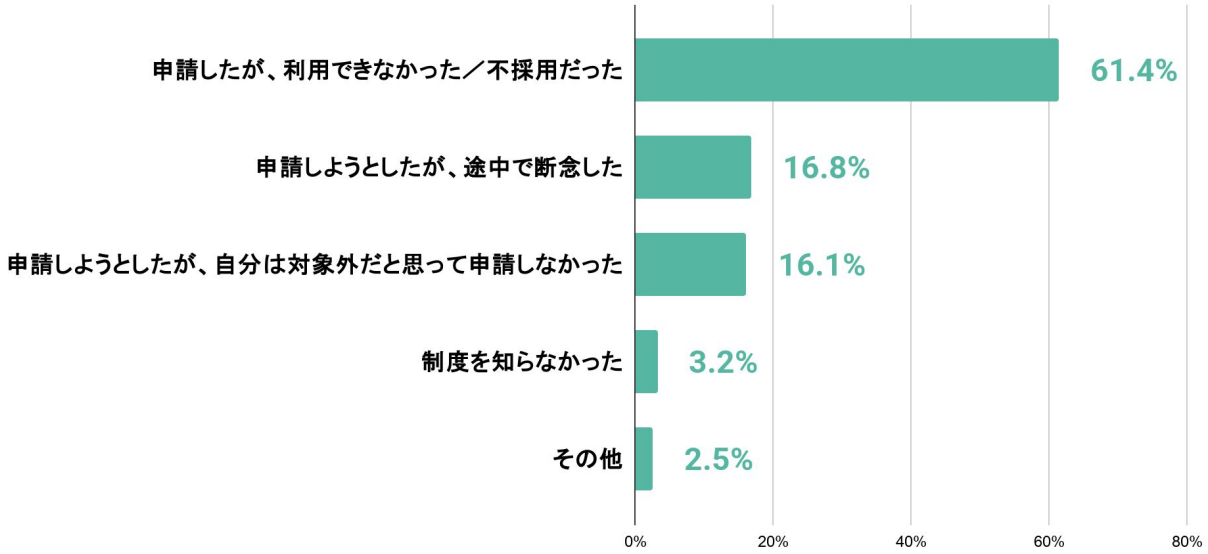
Q.このアンケートについて、どこで知りましたか？（複数選択可）



奨学金の利用状況①（n＝404人）

回答者の61.4%が「申請したが、利用できなかった／不採用だった」と回答し、最も多かった。また、「途中で断念した」（16.8%）、「自分は対象外だと思って申請しなかった」（16.1%）も、それぞれ約6人に1人みられた。

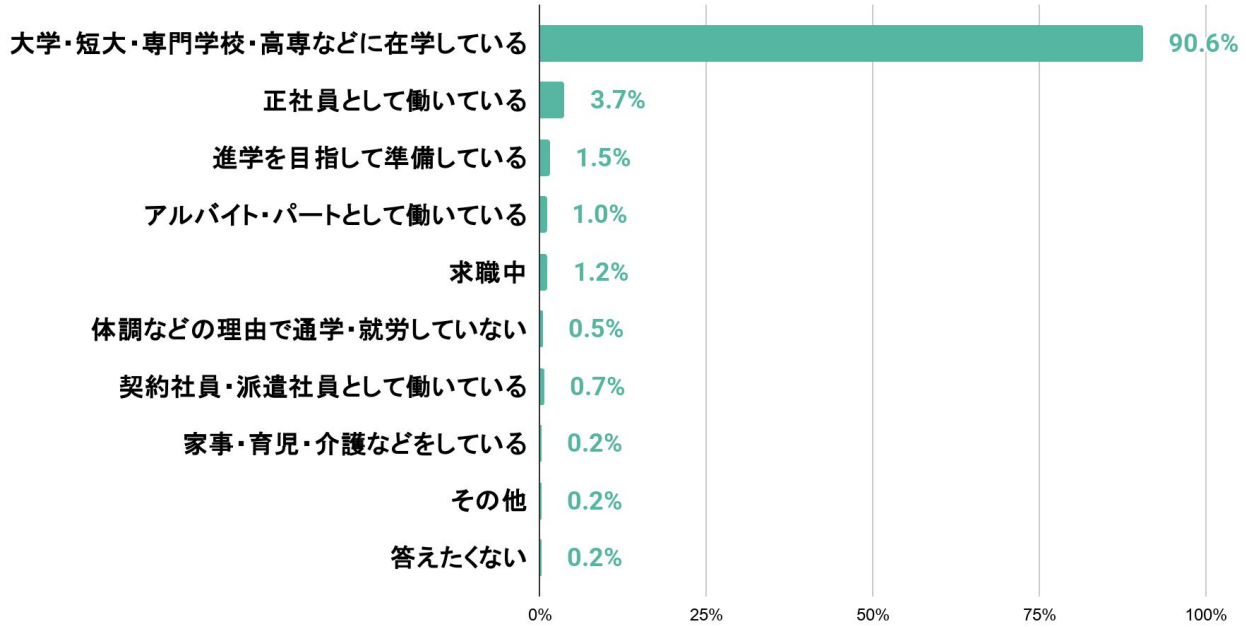
Q.奨学金について、あなたの状況に最も近いものを選んでください。



基本情報：回答者の在学・就労状況（n＝404人）

回答者の90.6%が、大学・短大・専門学校・高専などに在学している。

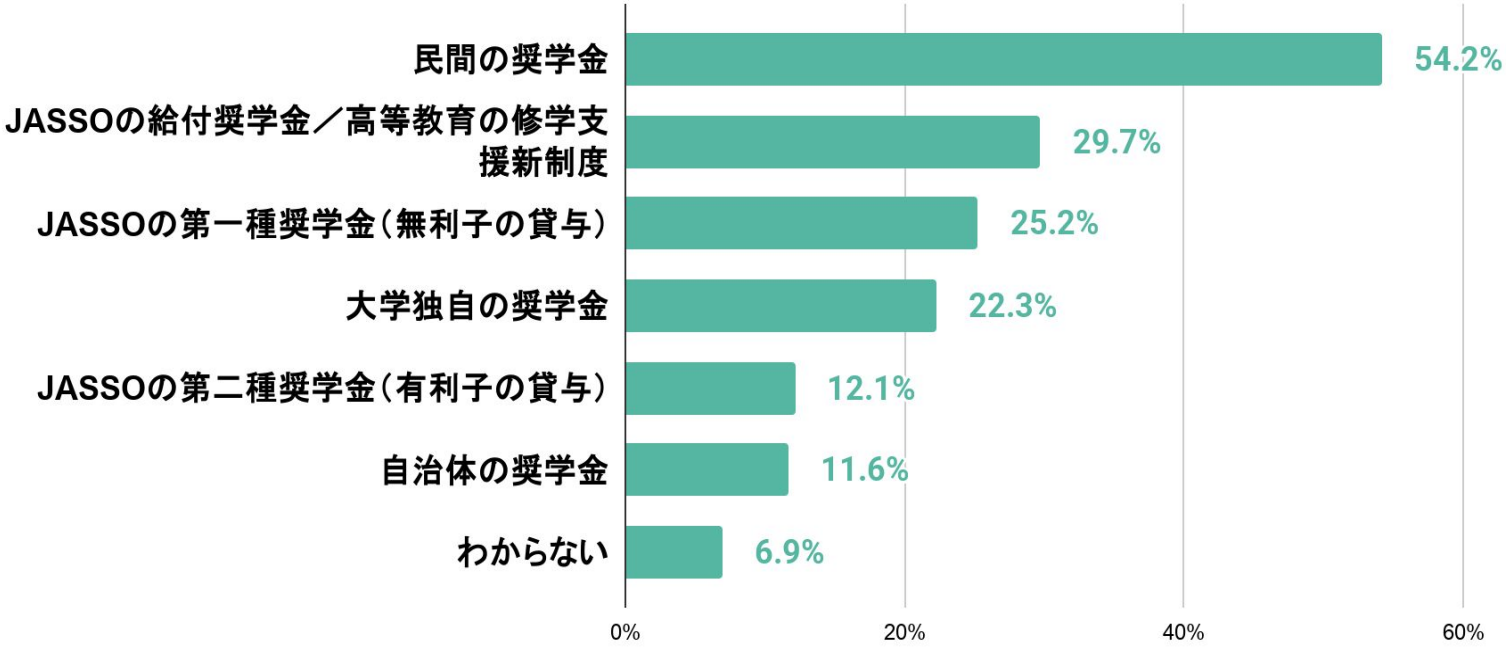
Q.現在のあなたの主な状況を教えてください
（１つのみ回答。在学中でアルバイトをしている方は、在学しているをお選びください）



奨学金の利用状況②（n＝404人）

回答者の54.2%が「民間の奨学金」の利用を考えた経験があり、最も多かった。

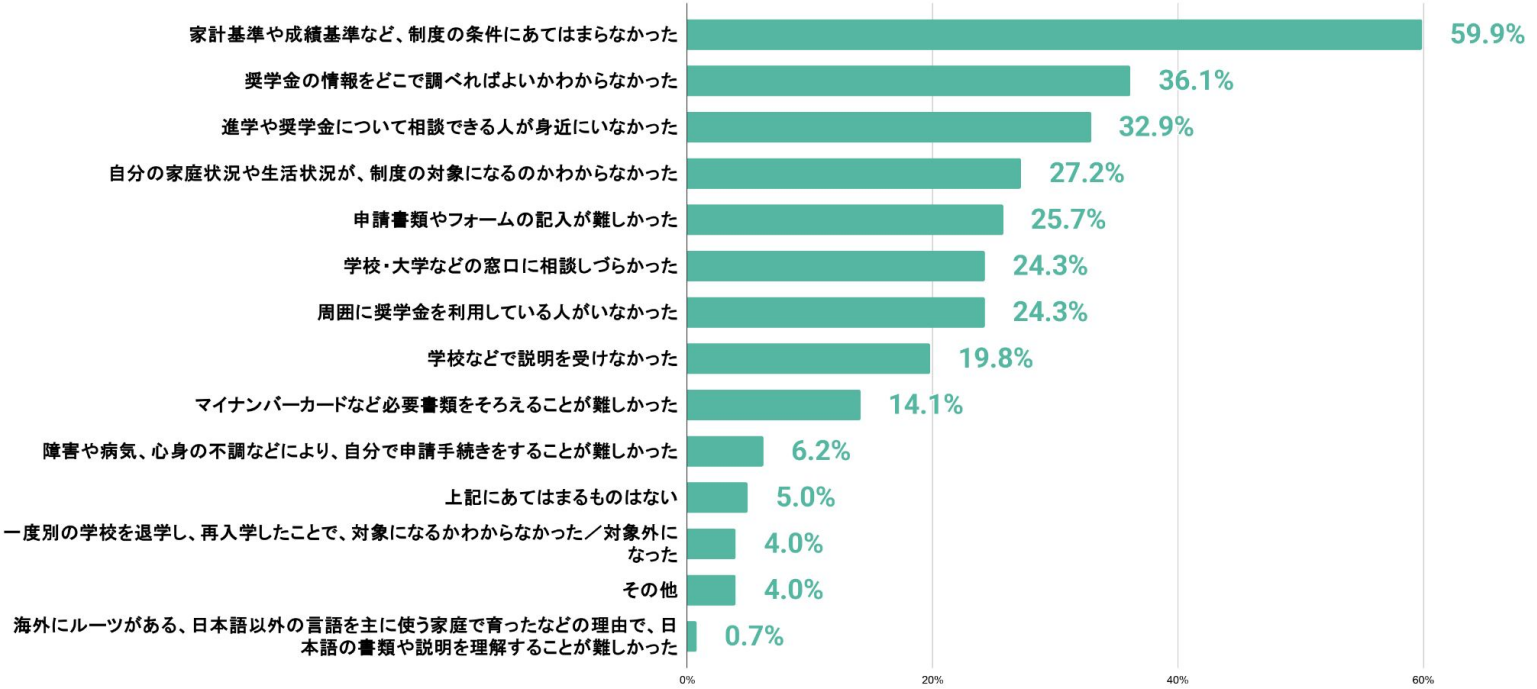
Q.利用を考えた制度を教えてください（複数選択可）



奨学金利用までのハードル(n＝404人)

「制度の条件に当てはまらなかった」という困りごとは、回答者の約6割にみられた。また、約3人に1人が「奨学金の情報をどこで調べればよいかわからなかった」「進学や奨学金について相談できる人が身近にいなかった」と回答した。

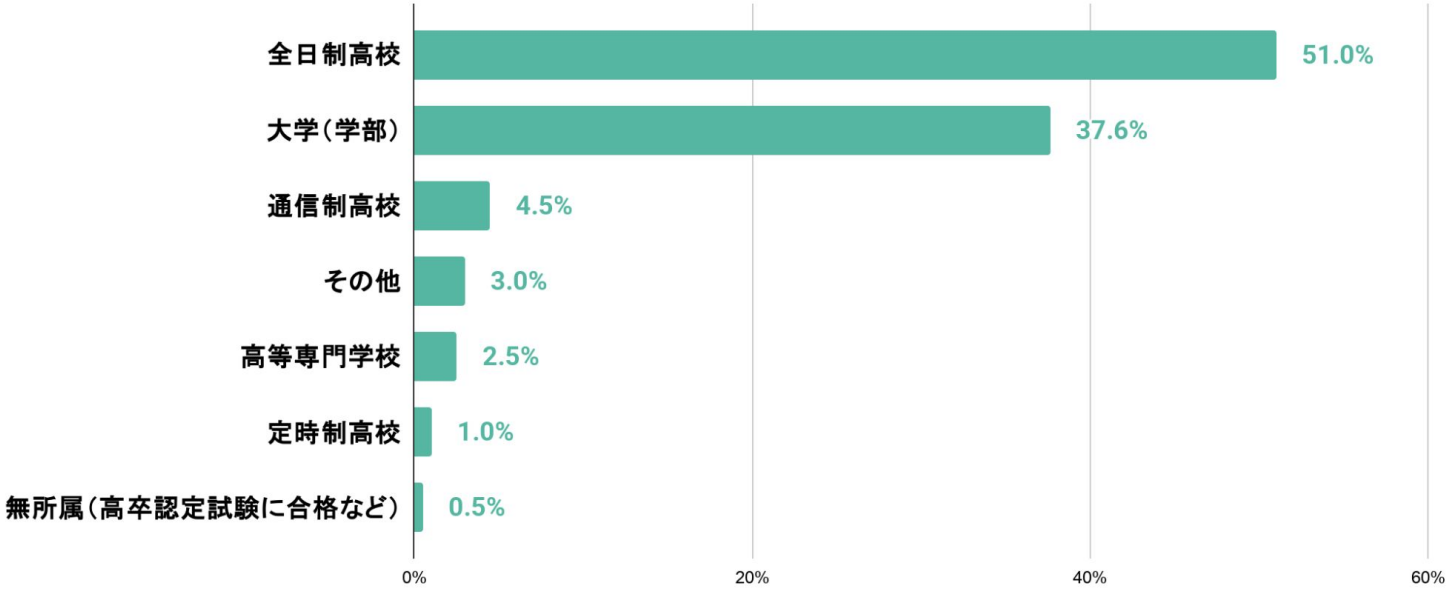
Q.奨学金の利用で困ったことを教えてください。(複数選択可)



進学を考えていた当時の所属学校種別（n＝404人）

進学を考えていた当時の所属先は、全日制高校が51.0％と最も多く、大学（学部）が37.6％と続いた。

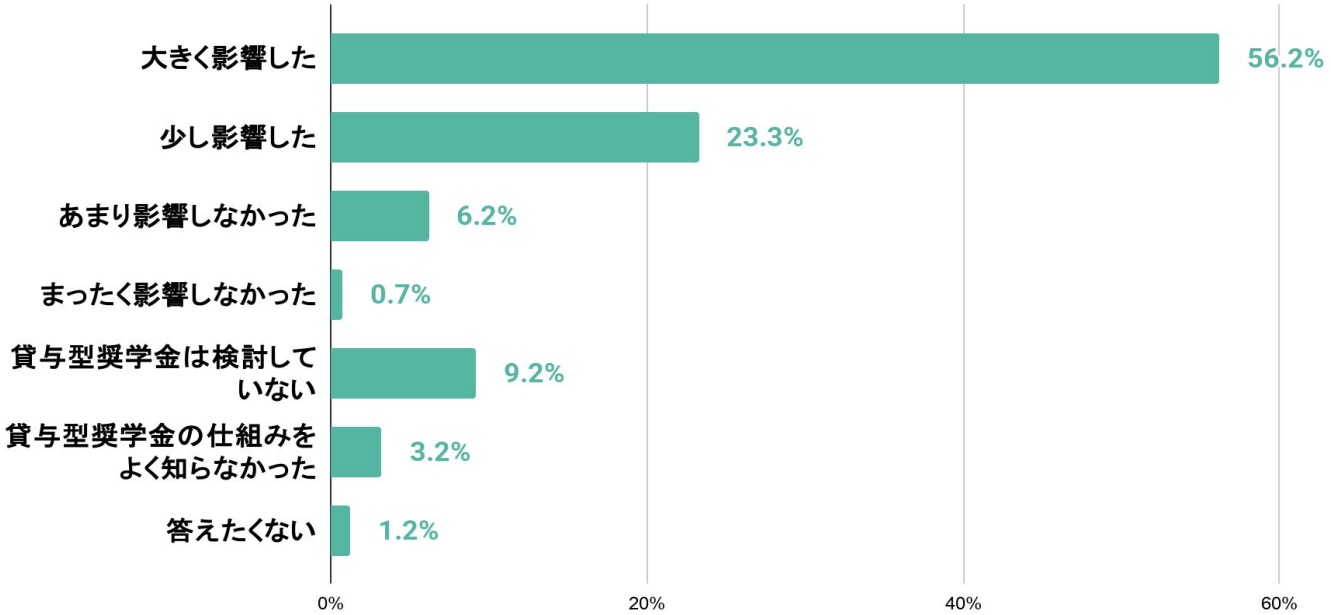
Q.進学を考えていた当時、所属していた学校の種別を教えてください。



貸与型の返済負担への不安が利用判断に与えた影響（n＝404人）

回答者の約8割（79.5%）が、貸与型奨学金の返済負担への不安が利用判断に「影響した」と回答した。

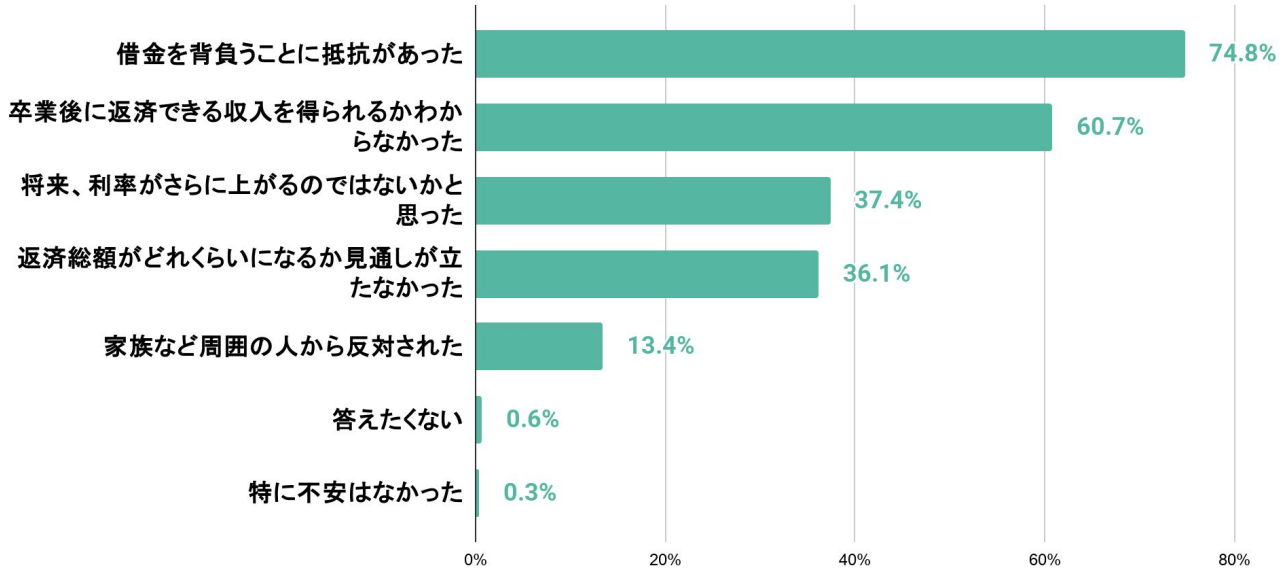
Q.貸与型奨学金について、利子や将来の返済負担への不安は、利用するかどうかの判断にどの程度影響しましたか。



返済について不安だったこと（n=321人）

この設問の回答者の約4人に3人（74.8%）が「借金を背負うことへの抵抗」を感じていた。また、約6割（60.7%）が卒業後に返済できる収入を得られるか不安を感じており、返済総額や金利など、将来の返済を見通せないことへの不安もみられた。

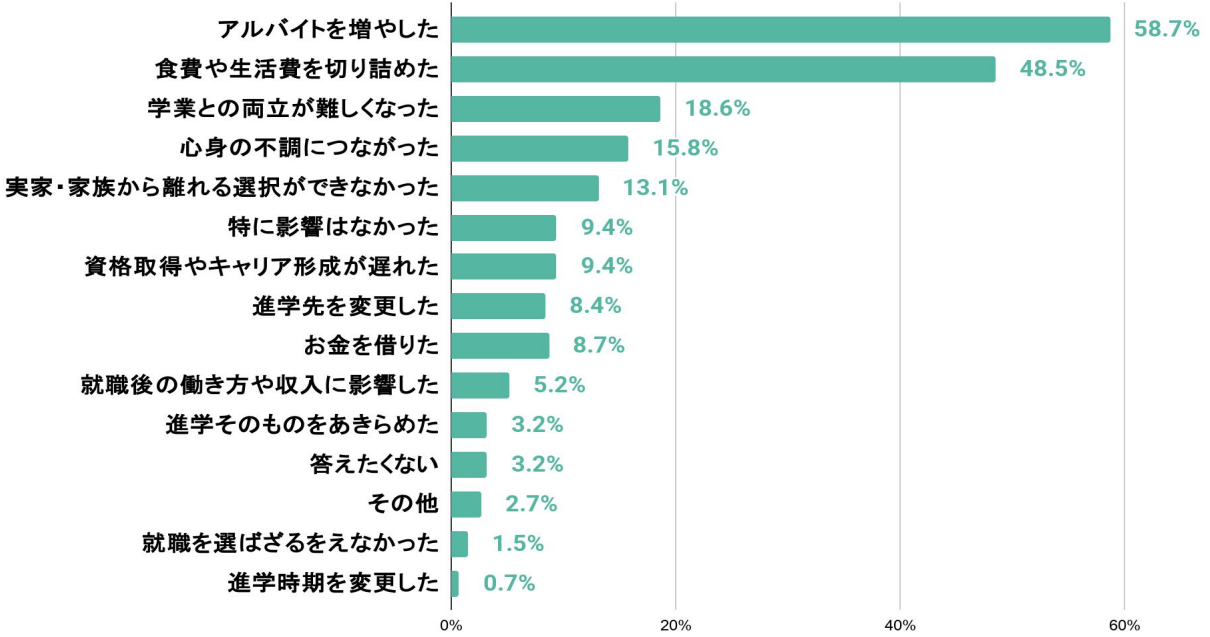
Q.利子や返済について、不安だったことを教えてください。あてはまるものをすべて選んでください。



奨学金を利用できなかった／利用しなかった影響（n=404人）

奨学金を利用できなかった・利用しなかったことによる影響として、「アルバイトを増やした」が58.7%と最も多く、約半数（48.5%）が「食費や生活費を切り詰めた」と回答した。また、「学業との両立が難しくなった」（18.6%）や「心身の不調につながった」（15.8%）など、生活面だけでなく学業や心身への影響もみられた。

Q.奨学金を利用しなかったことで、どのような影響がありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。



奨学金を利用できなかった／利用しなかった影響（n＝404人）

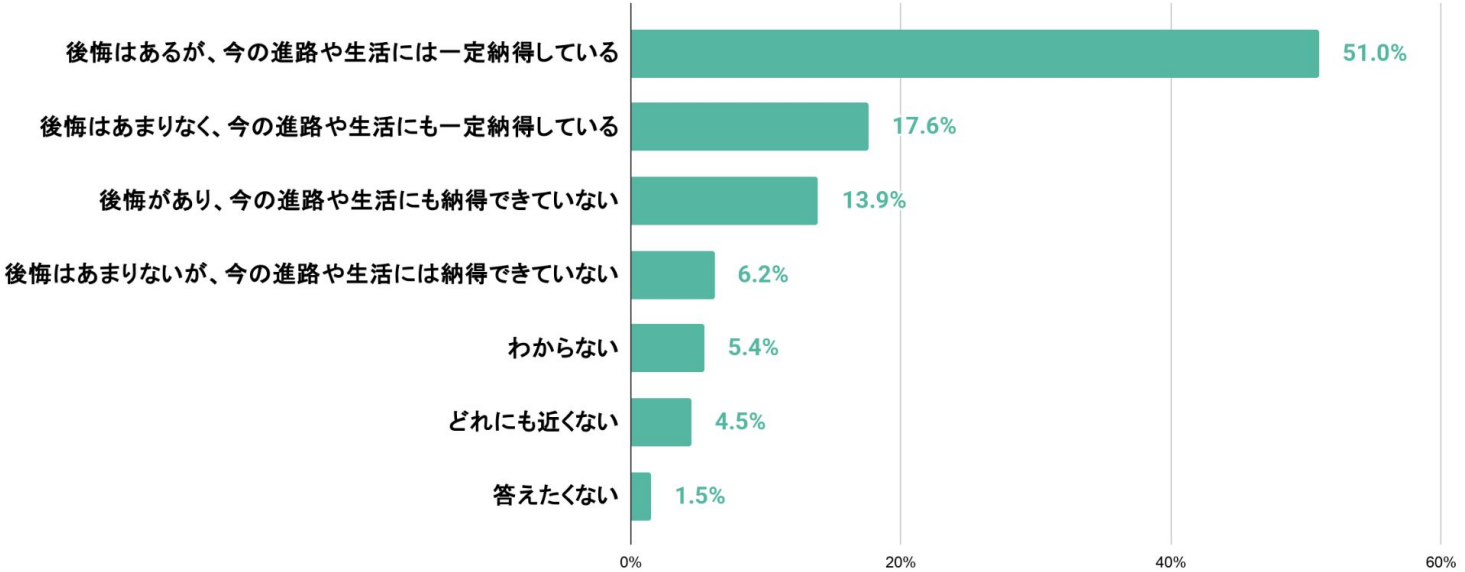
Q.先ほどの質問で「その他」と回答した方は具体的にどんな影響があったかを教えてください。

- 行きたいコースに行けなくなった
- 他の奨学金に変えた
- 家族がお金で大変そうだ
- 採用された奨学金もあるが、採用されなかった奨学金については、食費や生活費を切り詰める結果につながった
- 検討していた留学は見送った
- 学費が払えず休学した
- 学会の参加をあきらめた
- 学費を銀行から借りている
- 研究が進められなかった
- 有利子は対象となったものの、給付の奨学金が得られず、多額の借金に不安を感じている。また他の家は親が払ってくれていることが多く、劣等感があった
- 他の奨学金が通ったので、何とか進学できた

現在どのように感じているか（n=404人）

全体の68.6%が、現在の進路や生活に「一定納得している」と回答した。一方、20.0%は、現在の進路や生活に「納得できていない」と回答した。

Q.奨学金を利用できなかった／利用しなかったことについて、現在どのように感じていますか。最も近いものを選んでください。

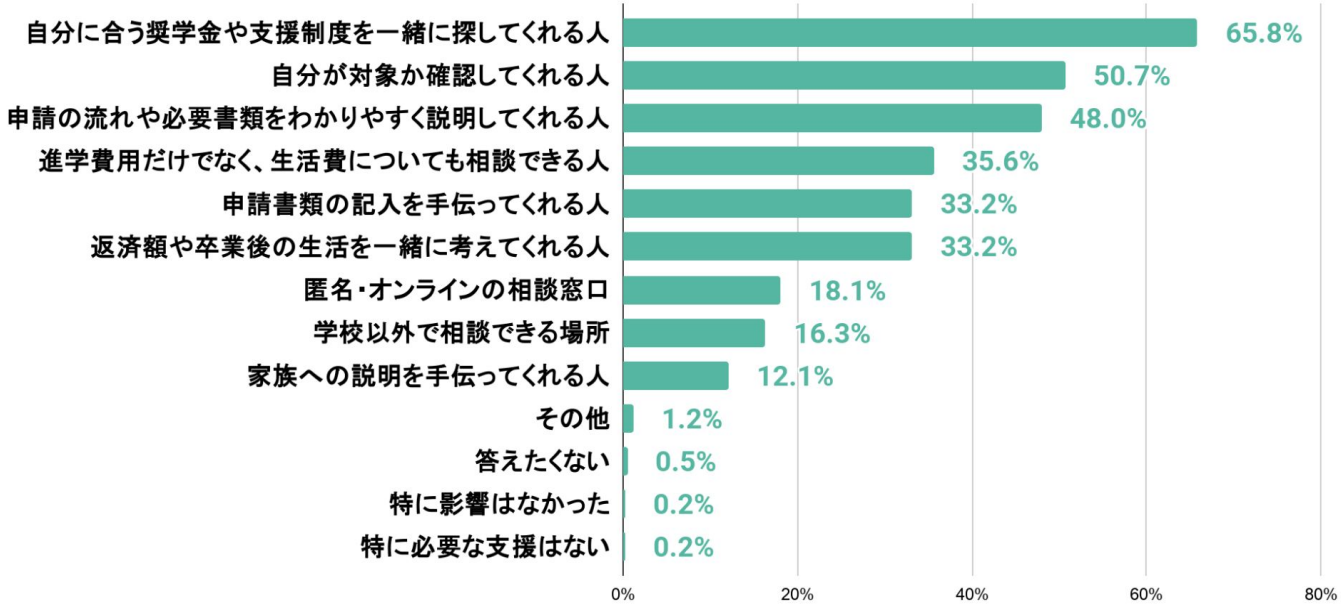


※「納得できていない」20.0%は、該当する2項目の回答者数を合算して算出しています。各項目の割合は小数第2位を四捨五入しているため、表示値の合計とは一致しません。

奨学金を申請しやすくするために望むサポート（n=404人）

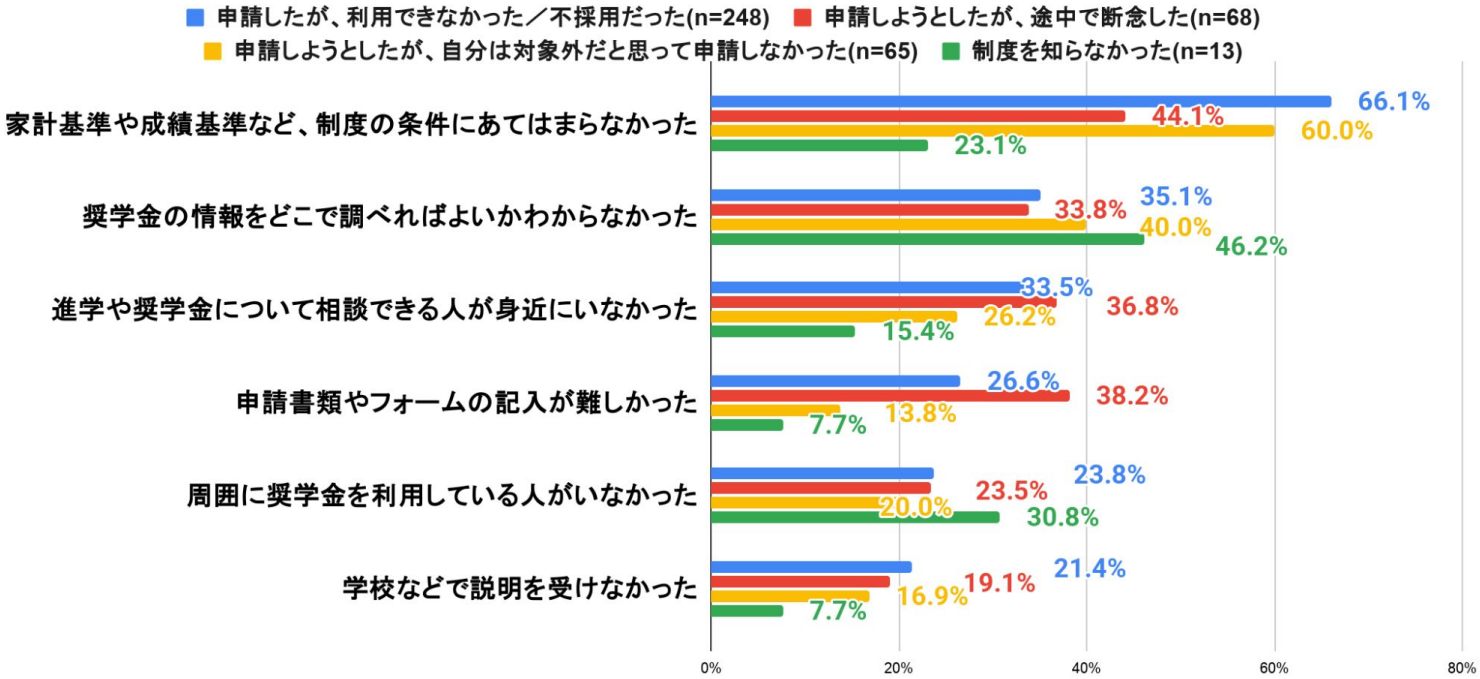
奨学金へのアクセスに関して、制度探しや対象要件の確認、申請方法の説明といったサポートへのニーズが高かった。特に、約3人に2人（65.8%）が「自分に合う奨学金や支援制度を一緒に探してくれる人」を求めていた。

Q.奨学金を申請しやすくするためにどのようなサポートがあるとよいと思いますか？
あてはまるものをすべて選んでください。

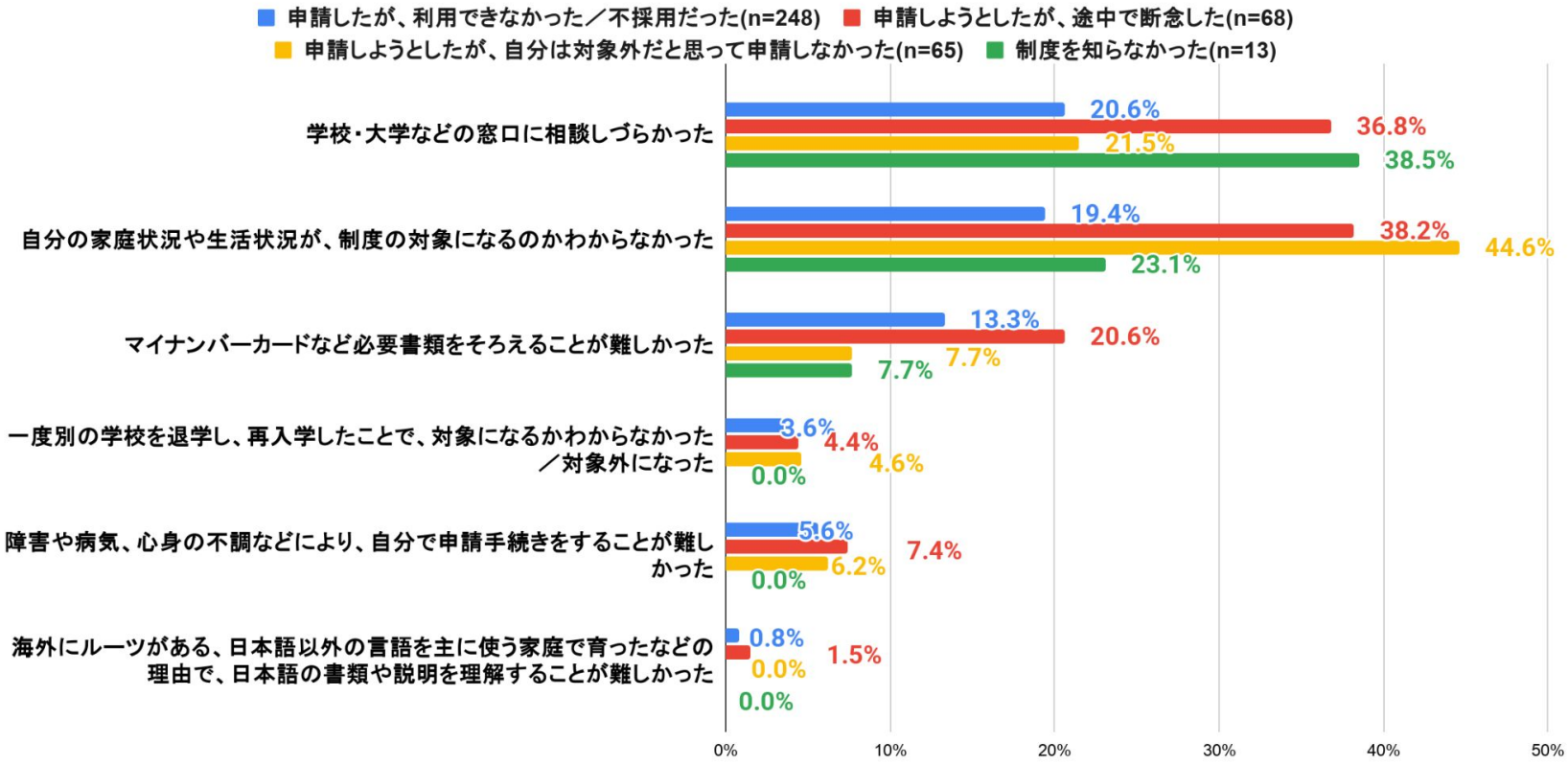


クロス集計：申請状況 × 奨学金利用時の困難1-1 （n＝394）

奨学金利用時の困難は、申請状況によって一部異なる傾向がみられた。「奨学金の情報をどこで調べればよいかわからなかった」は、いずれの申請状況でも一定程度みられた。一方、「学校・大学などの窓口に相談しづらかった」「自分の家庭状況や生活状況が制度の対象になるかわからなかった」「申請書類やフォームの記入が難しかった」などでは、申請状況による違いがみられた。

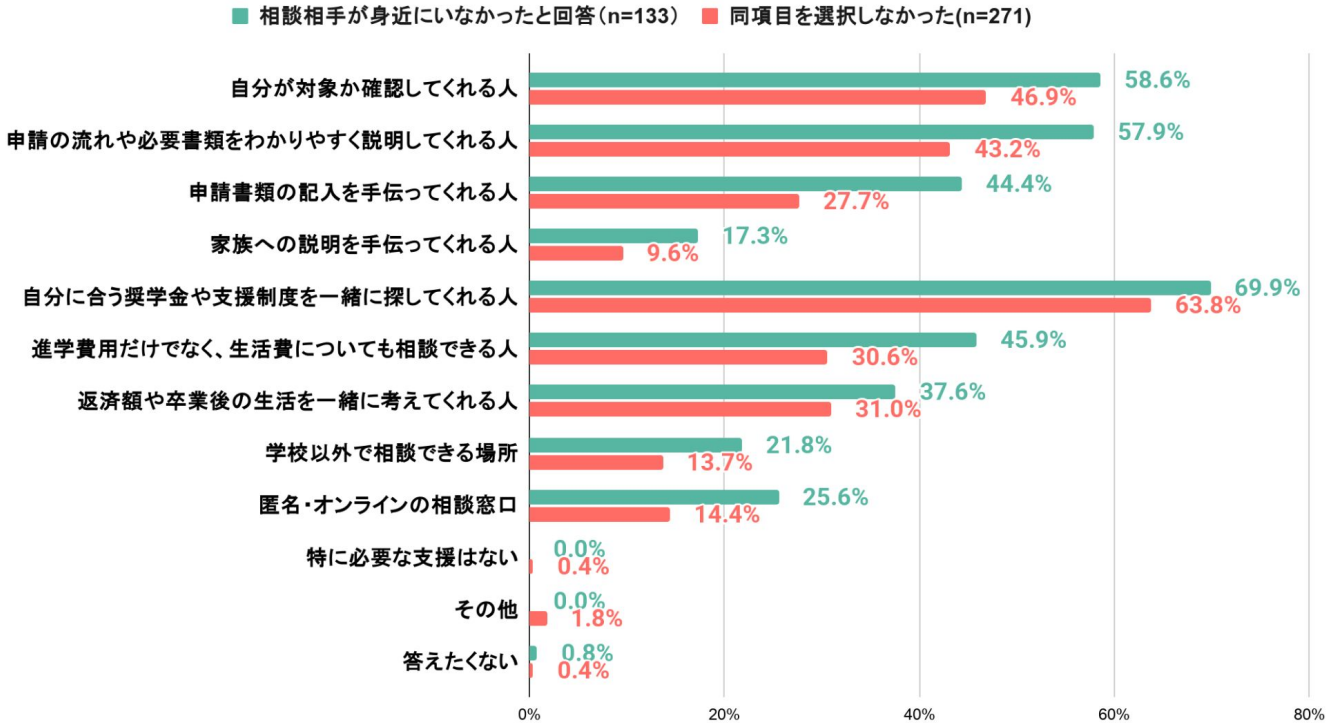


クロス集計：申請状況 × 奨学金利用時の困難 1-2 (n＝394)



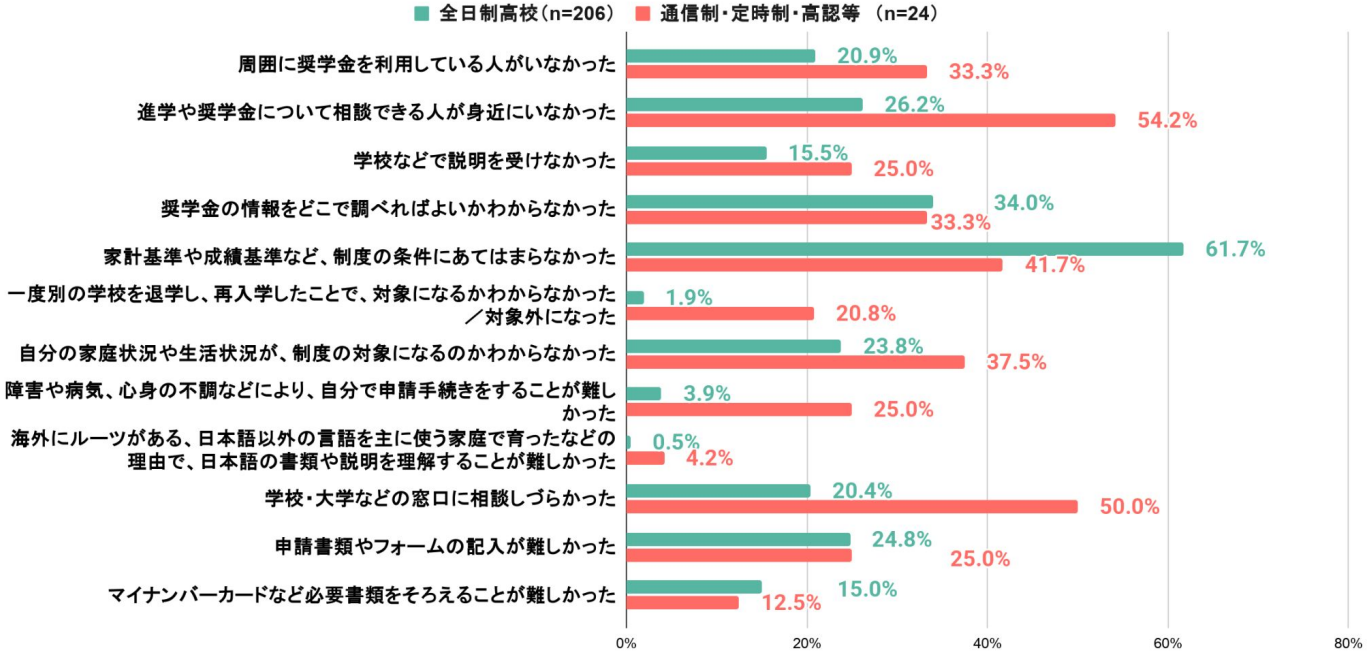
クロス集計：「相談できる人が身近にいなかった」 × 求める支援（n=404）

身近な相談相手の有無によって、求めるサポートには違いがみられた。特に「申請書類の記入の手伝い」「進学費用だけでなく、生活費についても相談」で15pt以上、「自分が対象かの確認」「申請の流れや必要書類のわかりやすい説明」「匿名・オンラインの相談窓口」で10pt以上～15pt未満の差があった。



クロス集計：学校種別× 奨学金利用時の困難（n=230）

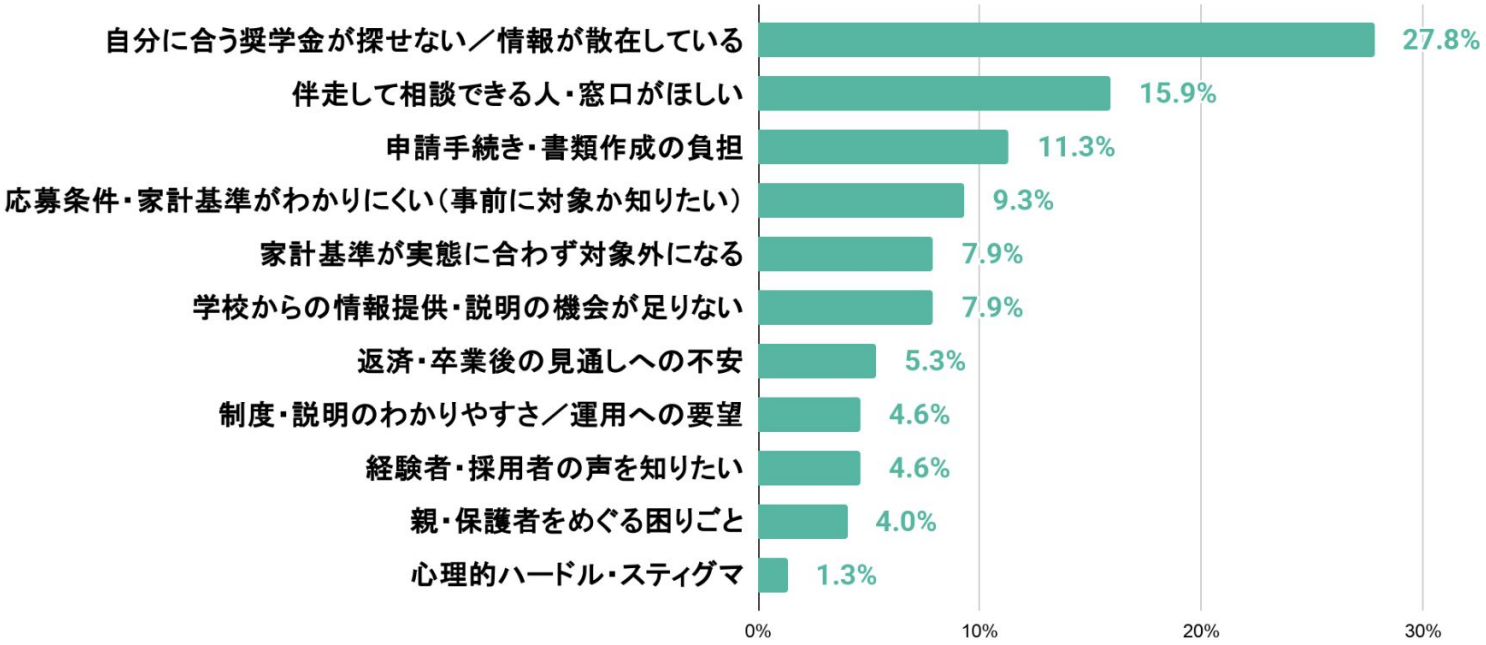
全日制高校出身者206人と、通信制高校・定時制高校・無所属の計24人を比較したところ、後者では相談相手の不足、学校窓口への相談のしづらさなどを選択した割合が比較的高かった。ただし、異なる学校種別を合算した小規模な集団であるため、あくまで参考値となる。



※通信制高校 n=18、定時制高校 n=4、高卒認定・無所属 n=2であった。

自由記述151件の分類から見えた課題

Q.当時、どのような情報やサポートがあれば、奨学金を利用しやすかったと思いますか。伝えておきたいことがあれば自由に書いてください。



※分析対象404件のうち、自由記述あり151件（記述率37.4%）。自由記述を主たるテーマ別に分類した。

「① 自分に合う奨学金が探せない／情報が散在している」に関するコメント　※一部抜粋

- 申し込んで初めて採用･不採用が分かるのではなく、収入や家庭状況を記入した上で、おおよその結果が分かるフローチャートがあれば良かったと思います(22歳)
- 申し込みの仕方が煩雑だったり、対象になるかが分かりにくい。特に世帯所得制限があるものなど。奨学金検索サイトで調べましたが、もう少し分かりやすい詳細や、自分の状況を入れたらヒットするシステムとかがあると分かりやすいです。あと、離れて暮らす母に書類を郵送してもらうことも足踏みする理由のひとつでした(18歳)
- 登録した情報を元に自分が申請可能な奨学金を教えてくれるシステムが欲しかった。一つ一つ家系状況や成績条件、期限などを確認していくのがすごく大変だった(18歳)
- 自分が対象となる奨学金を探す手助けをしてくれたり、書類記入などの手続きを一緒にやってくれたりするサポートが欲しいです(21歳)
- 自分に条件が合う奨学金を知らせてくれるようなサポート(20歳)
- 年齢、学部の種類、出身県、家計基準などを入れた時に、全国にある奨学金の中から、適合するものを出してくれる。そんなサイトがあったら、どんなに楽だっただろうかとかんがえる。それくらい書くことよりも探すのに時間がかかった(24歳)

「⑤伴走して相談できる人・窓口がほしい」に関するコメント　※一部抜粋

- 自分の生活状況や家庭状況にあった奨学金を提案してくれたり、こんな奨学金があるよと定期的に教えてくれる人がいたらいいなと思った(20歳)
- 複雑な家庭事情を理解してくれる人(19歳)
- 結果的に利用は出来なかったが、給付型奨学金の活用を前提に予定を組んでいた。奨学金の給付条件など詳しい条件を一緒に確かめて話し合える人が居たらもっと最適な計画を立てることが出来たかもしれない。一人暮らしで奨学金の手続きを行ったため、ひとりで心細い部分があった(19歳)
- 相談チャットのようなものがあればよかったなと思うた(19歳)
- 進学を真剣に考える時期に適切な窓口を紹介してくれる制度があるとよかった。進学のことをまじめに考えていない時期にいろいろな情報が入ってもそれをしっかり調べなかった(22歳)
- 奨学金を受け取ってる最中（特に給付型）も、サポートしてくれる制度があればよかった(23歳)
- 奨学金はJASSOの情報以外に信用できる情報源が限られていた。自分が対象である給付型奨学金に関する信用性の高い情報があり、相談できる人がいればよかった。また奨学金を借りるにあたって、高齢者の父と外国人の母の説得に時間を要した。奨学金について学生や生徒自身に説明できる先生だけではなく、親に対しても分かりやすく教えてくれる人がいたら良かった（20歳）

その他コメント　※一部抜粋

- JASSOの奨学金は比較的使われるようになったと思うが、給付・無利子については経済的基準が高すぎた。私の家庭の場合、親は進学費用を一切出さないものの、親の給与で決められてしまうため、有利子となってしまうことから奨学金を諦めた。いくら18歳成人といえど子どもであり、未熟だからこそ、大人の手を借りる、借りていいと思える相手が欲しかった(25歳)

- 学校での説明の場を設けてほしかった。奨学金を借りたい人とか対象の人だけでなく全員に説明する場があると聞きやすかったと思う(21歳)

- 実際にいくらの収入で家賃や食費、返済したらいくら残るのかなど含め、借りる費用が考えられればもっと利用しやすい。 利用した人のどの程度の人がいくら借りているなどの情報があると嬉しい（21歳）

- 所得証明書を親に頼んだ所「親の収入を知りたがるなんて」「恥ずかしいからそんなもの借りるな」とこっぴどく叱られ、親に内緒で出願・1次選考通過していた民間奨学金を諦めました。親が経済的に潤沢であるがゆえにJASSOの奨学金は所得制限に引っかかってしまいそうで、利用できませんでした。本当に辛く、大学院受験の際には「成績しだいで学費を全額免除してもらえる学校かどうか」を基準に受験しました。家計基準だけではなく、目に見えない形での困り事がある学生にも使える奨学金が欲しかったです。また、学校などから親を説得してもらえるような仕組みがあれば、もう少し違ったのかなと思っています(21歳)

- 奨学金がないと生活できないこと、奨学金を頼って進学していることがとても恥ずかしいことのように感じていました。奨学金を利用してもいいということ、奨学金の活用を恥ずかしいことではないと肯定してくれる方にサポートしてもらいたかったです(22歳)